

令和6年度 学校だより 第3号

かしわば

6月号

7月1日 日置市立東市来中学校



■ 作用・反作用の法則

校長 岡田 芳文

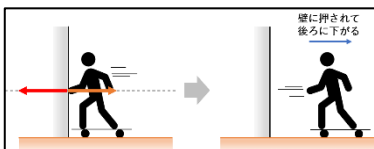
中学生は入学してから卒業する3年間の間に、理科の授業において、「作用・反作用の法則」を学習します。

この法則は、「物体に働く力は、常に2つの物体の間で力を及ぼしあうように働く。それぞれの力の一方を作用とした時、もう一方を反作用と呼ぶ。」と定義されています。これを簡単に説明すれば、「押すと押される、引っ張ると引っ張られる。」ということです。例として、

図にあるように、スケボーに乗った人が壁を押すと、押した力の分だけ、力が返ってきて、壁から後ろに下がる現象が挙げられます。私たちの住む世界は、押したり、引っ張ったりしたとき、同じだけの力が返ってくるという法則があるのです。

この法則は理科の物理分野の学習ですが、物質のことだけに留まる話ではないと考えています。

6月は悪口からの口論や友達へのからかいが原因のケンカ、不要物の持込み等、生徒指導事例が多い月となりました。これらの原因を作用・反作用の法則の側面から考えると、人に対する悪口やからかいの言葉や行動が、そのまま相手から自分に返ってきてケンカに発展したり、自分さえ良ければよいという自分中心の考え方から、校則を無視し不要物を持ち込んだ結果、先生方から指導されたりと自分の発言や行



動は、様々な形で自分に返ってきています。

何かしらの行動が自分に返ってくることを予測し、考えることができれば、自分にとって都合が悪くなる行為はしないことでしょう。逆に友人をからかうのではなく、友人を気遣う行動をとれば、おそらく「感謝」となって、自分に返ってくることは容易に予想できます。

自身の言動には良い、悪いに関係なく、相応の結果が自分に返ってきます。勉強は大変ですが、努力した分だけ自分に返ってくるものです。子供たちには良いと思えることは、積極的に行動し、明らかに悪いと思えることは、たとえ甘い誘惑があったとしても、行動しない心の強さを身につけてほしいと願っています。

◆ 租税教室

6月25日(火)に、3年生を対象に租税教室を行いました。今回の租税教室は、財務省の財政教育プログラム事業を活用して九州財務局や伊集院税務署の方々5名が講師として来てくださいました。

最初に財政に関する講話を行ったあと、グループワークを行いました。「財務大臣になって予算を作ろう!」というテーマのもと、各グループでどのような国にしていきたいのか、どのような予算を組めば理想とする国造りができるかを検討し予算案を作成しました。生徒たちは、税に対し真剣に向き合うことができたようです。生徒からは「税に関して考える貴重な体験をすることができた。」という感想を多く聞くことができました。



❖ 国際交流活動

6月26日(水)に2年生が国際交流活動を行いました。オンライン会議システム「Zoom」を使って、マレーシアのスバンジャヤ中高等学校の中学2年生の生徒たちと交流を深めました。最初に代表の生徒が本校の紹介を行ったあと、グループに分かれ英語で自己紹介を行ったのち、質問などのフリートークを行いました。最初は緊張していた生徒たちでしたが、ジェスチャーを交えた英会話で意思疎通が図れることに楽しさを感じたようです。授業の終盤は、まだ会話を続けたいと名残惜しそうな様子でした。スバンジャヤ中高等学校の校長先生からも、是非近いうちに再度交流をしたいとの感想をいただきました。



【7月行事】

- 2日(火) SOS の出し方教室 (1年)
- 5日(金) 性に関する授業 (3年)
- 12日(金) 学校運営協議会
- 13日(土) 土曜授業日 合唱祭
- 19日(金) 終業式
- 20日(土) 県中学校総合体育大会 (~26日)
- 23日(火) 夏の祭典
- 26日(金) 県吹奏楽コンクール

